

海外出張報告

FMD week 2010 : Open Session of the Standing Technical Commission に参加して

出張期間：平成 22 年 9 月 28 日～10 月 3 日

出張場所：オーストリア（ウィーン）

MORIOKA Kazuki

国際重要伝染病研究チーム 主任研究員 森岡 一樹

欧州口蹄疫防圧委員会European commission for the control of foot-and-mouth disease (EuFMD) の学術会議 Open Session of the Standing Technical Commission: FMD week 2010が平成22年9月29日～10月1日の日程でオーストリア国ウィーン市にあるウィーン獣医科大学において開催されました。この学会はFAOに所属するEuFMDの主催により2年に一度開催される口蹄疫の学会で、私は2006年(キプロス国 パフォス)、2008年(イタリア国 エリス)に引き続き3回目の発表となります。数少ない口蹄疫の専門の学会ということで、出来るだけ演題を用意して参加するようにしています。今回は昨年4月の宮崎県での口蹄疫発生により参加をあきらめていましたが、演題募集の延長と口蹄疫の終息に助けられ、何とか参加に漕ぎつけました。

今回の本学会においては、現在、取り組んでいる口蹄疫ウイルス抗原検出法に関する演題でポスター発表を行いました。また、動物衛生研究所疫学研究チームの筒井俊之チーム長が2010年4月に宮崎県において発生した我が国の口蹄疫の状況についての講演を行い、同行した農林水産省動物衛生課の山本健久氏を含む3名での参加となりました。3日間で講演および研究口頭発表90題およびポスター発表28題の発表が行われました。

2010年4月の日本の口蹄疫発生に関する発表に対しては、使用したワクチンの効果はどうだったのか、2000年の発生に比べて2010年の発生が大規模となった要因は何か、なぜ日本で開発された口蹄疫ウイルスに対する抗ウイルス薬(T-1105)を使用しなかったのかといった質問があり

ました。また、私の発表した口蹄疫ウイルス抗原検出法の発表に対しては、本法がELISA法によるものだったこともあり、野外で使用可能なペンサイド法への応用、あるいは迅速な血清型別法を要望する声がありました。

欧州主体の学会ではありますが、世界中から多数の研究者が参加していました。口蹄疫清浄性のステータスおよび抱えている問題など、お国事情は様々です。今回、特に疫学分野においてアフリカからの発表が多い印象を受けました。アフリカ



ウィーン市内にあるペスト記念塔

17世紀に猛威を振ったペストの終息を願い、レオポルド1世が建てたもの。感染症根絶の願いはいつの時代も変わらない。

では野生動物や遊牧民が国境を越えて往来してしまいうため、周辺国あるいは大陸全体の協力無しには口蹄疫撲滅は困難であるというアフリカ研究者の訴えが印象的でした。大陸アジアにおいても同様のことがいえると思います。また、会場はメイン会場とサブ会場に分かれていたため、全てを聴講することは出来ませんでした。私が主に聴講した会場では診断法の開発および検証、次世代ワクチンの開発、ワクチンの評価法および抗ウイルス剤に関する発表があり、大いに刺激となりました。

また、2009年11月にドイツのBrehmらにより、山羊の舌上皮細胞(ZZ-R 127)が口蹄疫ウイルスに高い感受性を示すことが発表されましたが、今回の本学会の演題においても取り上げられていました。個別に聞き取りをしたところ、多くの研究所で既に使用されていることがわかり、株化されているので使い勝手も良いという評判でした。そこで帰国後まもなく国際重要伝染病研究チームでも導入許可の伺いを立てています。また、本学会への参加により、今後につながる人的交流の機会を得ることが出来たことも大きな収穫となりました。

TOPICS

アグリビジネス創出フェア2010

平成22年11月24日から26日の3日間、幕張メッセにおいて「アグリビジネス創出フェア2010」が開催され、大学、民間、独法など182機関の出展と過去最高の26,854名の来場者がありました。動物衛生研究所の展示ブースにおいては、①PCR法による鳥インフルエンザウイルスの迅速な亜型判別法、②プリオンの感染性を高感度かつ迅速に検出する遺伝子改変マウス、③タンパク質の段階的な発現法、④遺伝子組換えカイコ絹糸におけるブタリゾチームの生産、⑤携帯型の牛用脳幹機能測定・解析装置の開発、⑥危機管理型家畜伝染病発生地図表示システムの6テーマのパネルと関連機器やキッ

トの展示並びに動衛研紹介ビデオの映像展示をしました。また、動物衛生研究所との共同研究による「富士平工業株式会社：人工授精・受精卵移植兼用ブタ子宮深部注入用カテーテルの開発」が平成22年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰「(社)農林水産技術情報協会理事長賞」を受賞しました。当所のブースには企業、個人、大学、公的機関など様々な方が訪れ、3日間の展示で用意し

た1,200部の動衛研紹介用パンフレットを全て配布し、熱心な技術情報の交換が行われました。

(生産病研究チーム 上席研究員

新井鐘蔵)

